

# GoProの魅力



POINT **1**

## 4Kの上を行く 5.3Kに対応した 圧巻の高精細撮影

HERO11/12/13は、4K(約830万画素)を超える5.3K(約1,590万画素)に対応した、他を圧倒する高精細なビデオ撮影および、従来機種との2倍以上の、2700万画素の有効画素数で写真を撮影できる。



POINT **3**

## 多彩な撮影モード

ビデオ・写真・タイムラプスのメイン撮影モードは、どれも直感的な操作が可能。目的やシーンに合わせて使い分けることで撮影の幅がさらに広がる。

POINT **2**

## 優れた防水性・耐久性

ハウジングなしで水深10mまでの防水性能を備え、雨の日の撮影や水中でのアクティビティにも連れ出せる。さらに低温下にも耐えるタフなバッテリーにより、雪山や冬のアウトドアでも問題なく撮影が可能。



POINT **4**

## 多彩なナイトエフェクト

地球の自転を利用して星の光跡を記録できる「スタートレイル」や、動きのある光源を使用して光の絵を描く「ライトペインティング」など、アーティスティックなフォトを簡単に撮影できる。

# GoProの各部名称と役割を確認しよう

Keyword 各部名称

GoPro HERO11 Black (以降HERO11)、GoPro HERO12 Black (以降HERO12)、GoPro HERO13 Black (以降HERO13)の各部名称を覚えよう。GoProの操作はとてもシンプル。複雑な機能の設定を必要としないため、機械に抵抗がある人でもスムーズに操作できる。優れた機能を安心して使いこなすために、ボタンやライトの位置と役割を知っておくことが大切だ。

## 1 HERO13の各部名称

前面・上面

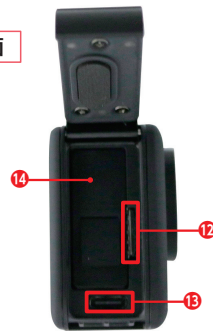


1 シャッターボタン	撮影を開始・停止するボタン。
2 ステータスライト	カメラの起動・終了や撮影時に点灯する。
3 フロントスクリーン	各種情報を表示する液晶画面。
4 モードボタン	カメラの起動・終了、カメラモードの切り替えに使う。
5 マイク	動画撮影時の録音に使う。
6 リムーバブルレンズ	レンズが破損したときなどに、取り外して付け替える。
7 ドレインマイク	水抜きをするときに使う。

背面



側面



8 ステータスライト	カメラの起動・終了や撮影時に点灯する。
9 タッチスクリーン	被写体を映し出したり、タッチ操作で各種設定を行える背面液晶。
10 バッテリードア	バッテリーとmicroSD カードスロット、USB-C ポートを保護するカバー。
11 ドアラッチ	バッテリードアが開かないようにロックする。
12 microSDカードスロット	撮影した動画や写真を記録・保存するmicroSD カードを挿入する。
13 USB-C ポート	付属のUSB-C ケーブルを接続するときに使う。
14 バッテリー	GoPro の電源となる蓄電池。

底面部



15 フォールディングフィンガー	マウントやアクセサリを取り付けるときに使う。
16 スピーカー	動画再生時に音声を発する。
17 1/4-20マウント用ねじ穴	三脚マウントなどの1/4-20ねじに対応したアタッチメントに直接取り付けられる。
18 マグネット式ラッチマウント接続部	別売りのマグネット式ラッチマウントを取り付けるための接続部。



# 撮影したメディアを確認しよう

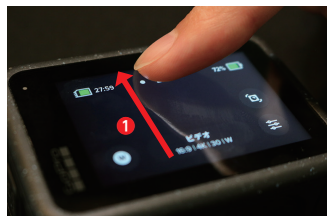
Keyword 再生・停止/ギャラリービュー/スライダー

動画や写真を撮影したら、**再生して確認**しよう。撮影モードによって再生方法がいくつもあるので、状況に応じて使い分けよう。ここではHERO12の画面で解説する。

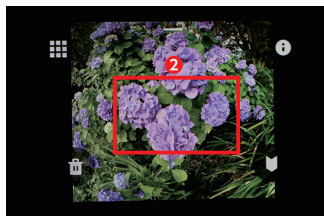
2

## 1 再生画面を表示する

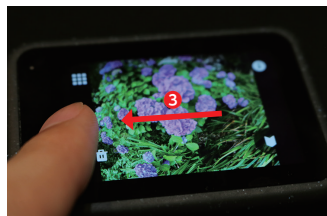
撮影したメディアは、**タッチディスプレイ**ですぐに確認できる。その他にもアプリを使ってスマートフォン(→P.53)でも確認ができる。



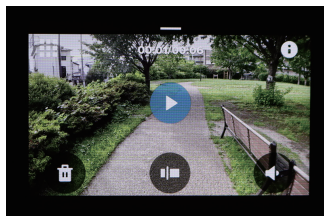
タッチディスプレイを下から上にスワイプする**1**。



最後に撮影したメディアが表示される。動画や連続写真の場合は、自動的に映像が再生される。中央のアイコンをタップすると一時停止できる**2**。




左右にスワイプすると、他のメディアに切り替わる**3**。

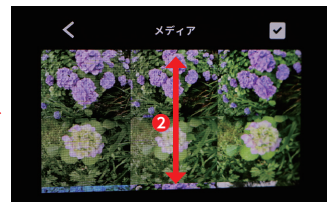


## 2 ギャラリービューを使用する

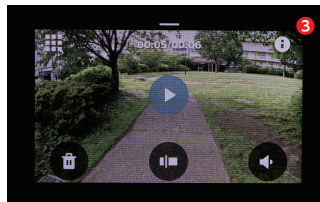
撮影したメディアを複数表示したいときには、**ギャラリービュー**を使用しよう。保存されているすべてのメディアにすばやくアクセスできる。



再生画面の左上にある  をタップする**1**。



複数のメディアが表示される。上下にスワイプしてメディアをスクロールする**2**。



メディアをタップすると、フルスクリーン表示に切り替わる**3**。

## ギャラリービューの表示



各メディアの左下には連続写真であれば写真の枚数**1**、動画であれば録画時間が表示される**2**。



再生画面に戻るには左上のアイコンをタップする**3**。

2

GoProで撮影しよう

# 動画の品質を設定しよう 「解像度」

Keyword 解像度

ここでいう**解像度**とは、画像を構成する画素（ピクセル）数を表しており、解像度が高いほど鮮明な動画になる。HERO11/HERO12/HERO13ともに、**5.3K**まで対応している。撮影する時間や被写体にに応じて使い分けよう。

## 1 解像度はシーンで使い分ける

解像度が高くなれば、フレームレート（→P.64）が制限されるのも大きな特徴。フレームレートが低くなると動画のなめらかさが損なわれるため、動きの激しい被写体や、スローモーションビデオの撮影には不向き。逆に遠くのを美しく映すことができるため、背景までこだわりたい風景動画などに使用しよう。

### 1080



拡大すると粗が目立つが、SNSなどにアップする場合などには十分な画質。フレームレートが高めに設定できるので、動きの激しい映像にもおすすめです。

### 4K

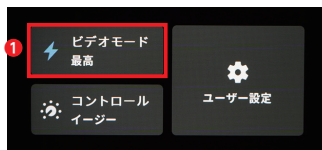


背景までくっきりと収められ、奥行きのある空間を撮影するのに向いている。ただし、容量が大きく、フレームレートも低くなるのでシーンを選んで使おう。

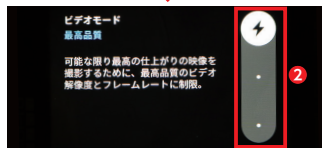
## 2 操作手順

### HERO11の場合

#### イージークントロール

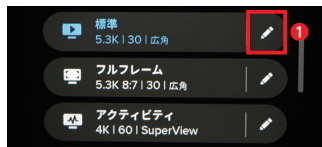


設定画面のビデオモードをタップする**1**。

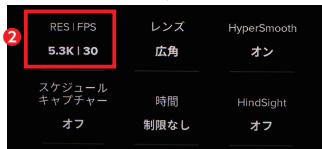


「最高品質」(5.3K)「省電力」(4K)「最長バッテリー」(1080p)から選択する**2**。

#### プロコントロール



プリセットのペンアイコンをタップする**1**。



RES/FPSをタップする**2**。



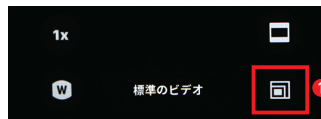
任意の解像度を選択する**3**。

### HERO12/13の場合

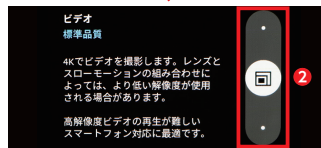
#### イージークントロール



HERO12の撮影画面。撮影設定をタップする**1**。

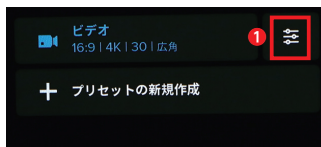


HERO13の撮影画面。右下のショートカットをタップする**1**。



「最高品質」(5.3K)「標準品質」(4K)「基本品質」(1080p HD)から選択する**2**。

#### プロコントロール



プリセットの設定アイコンをタップする**1**。



解像度の項目までスクロールし、任意の解像度を選択する**2**。



# 手ブレを補正しよう 「HYPERSMOOTH」

Keyword HYPERSMOOTH

撮影時のブレを低減し、プロ仕様の映像を実現する。サイクリングやバイクに乗っての撮影、片手で持ちながらの撮影など、細かな振動が生じる撮影で、動画を安定させる効果がある。

## 1 手ブレを補正してなめらかな動画を撮影する

HERO11/12/13ともに強力な手ブレ補正である「HYPERSMOOTH（ハイパースムーズ）」が搭載されており、非常になめらかな動画を撮影できる。HERO11では「自動ブースト」「ブースト」「オン」「オフ」の4つから、HERO12/13では「自動ブースト」「オン」「オフ」の3つの設定から手ブレ補正の度合いを選べる。

### HYPERSMOOTH オフ



片手で撮影する場合など、振動をともなう撮影では小さなブレが気になる。

### HYPERSMOOTH オン

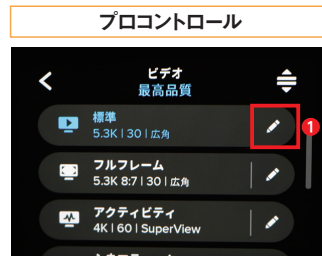


細かなブレを低減し、動画を安定させてくれる。

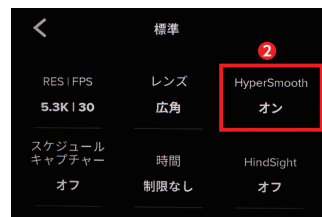
## 2 操作手順

HERO11/12/13ともプロコントロールモードから設定できる。

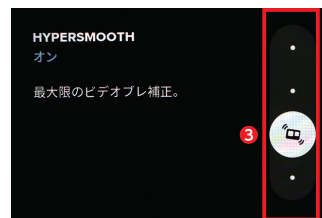
### HERO11の場合



プリセットのペンアイコンをタップする①。



「HyperSmooth」をタップする②。



任意の設定を選択する③。

### HERO12/13の場合



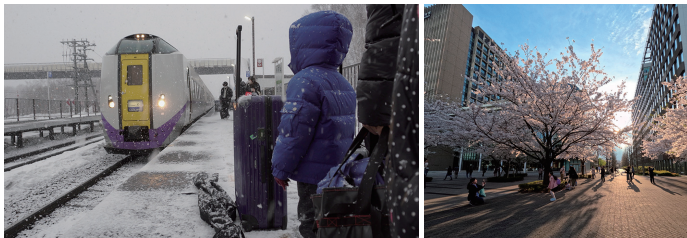
プリセットの設定アイコンをタップする①。



HyperSmoothの項目までスクロールし、任意の設定をタップする②。

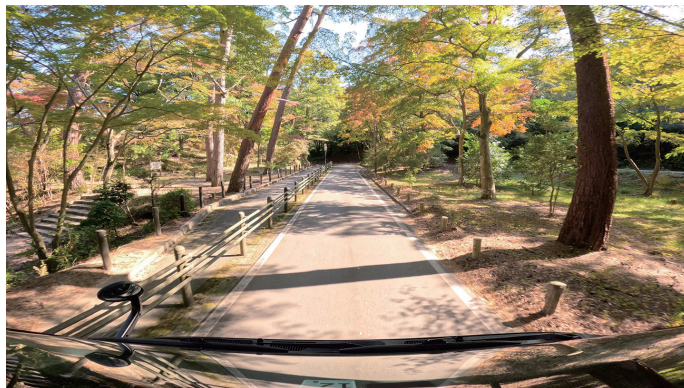
## 1 楽しい旅の様子を記録する

軽くて小さく操作も簡単なGoProは旅先での撮影にもバッチリだ。大きなカメラだと撮影に気をとられて、肝心の景色を楽しむことができないが、GoProを使えば、最低限の装備できれいな映像を残すことができる。



景色を映す際はリアアがオススメだ。映像の歪みが少なく、より自然な感じで撮影ができる。カラープロファイルはピビットを選ぶと晴天の日は色鮮やかに撮影できる。

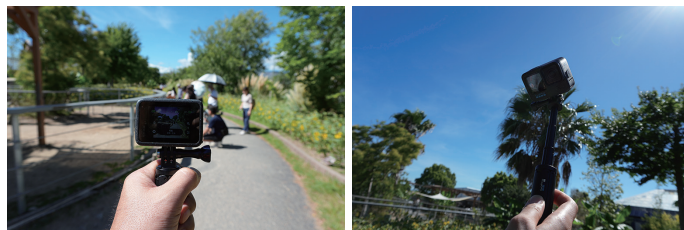
## 旅の道中を撮影する



強力な手ぶれ補正が搭載されているGoProは移動しながらの撮影も簡単だ。その他にも吸盤を使い、車内のサイドウィンドウなどにマウントして運転している様子を映すこともできる。マグネットマウントを使えば金属部分にどこにでも貼り付けて使えるため、撮影の幅が広がる。

## おすすめのアクセサリ

旅の撮影には**3-way2.0**がオススメだ。短くたたんだ状態ではハンドグリップのように使い、長く伸ばせば自撮り棒になる。体から1メートル離すだけでもGoProの超広角レンズは普段とは違った景色を映し出してくれる。



自撮り棒の先端につけると通常よりもブレが大きくなるため、HYPERSMOOTHを必ずオンにしよう。激しく揺れる場合はオートにしておくとも自動的に手ぶれ補正の効き具合を調整してくれる。自撮り棒を使う際にもまっすぐにするのではなく、若干角度をつけて使うことで自撮り棒が画角の中に入り込まないようにすることもできる。

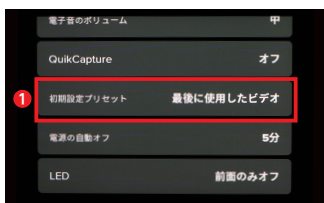


# 起動時のプリセット/ 撮影モードを選びたい

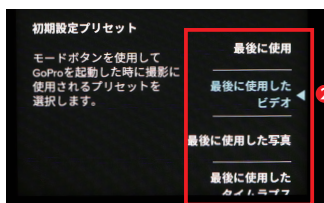
Keyword 初期設定プリセット/初期設定モード

GoPro 起動直後のデフォルトの**プリセット**や**撮影モード**を、自分で設定し直すことができる。よく使うプリセットがあったり、起動後すぐに使いたい場面は、あらかじめ設定しておこう。

## 1 起動後すぐに撮影できるように設定する

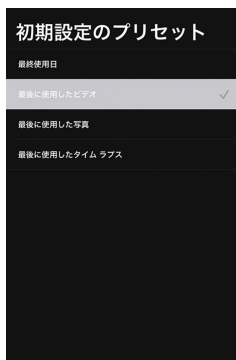


「ユーザー設定」の「一般」から、「初期設定プリセット」をタップする①。



右の項目を上下にスライドして、起動したときに撮影に使用するプリセットを選ぶ②。「最後に使用」を選ぶと、最後に使ったときのプリセットがそのまま引き継がれる。

### アプリの場合



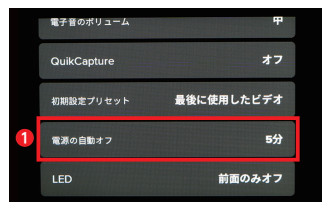
プレビュー画面の「カメラのユーザー設定」から、「初期設定のプリセット」をタップする。任意のプリセットを選ぶ。

# 電源が自動でオフになる時間を設定したい

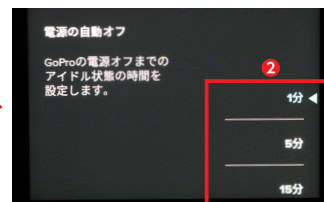
Keyword 電源の自動オフ

電源が入ったGoProを放置していると、操作をしていなくてもバッテリーは消費されていく。一定時間操作されずに時間が経過すると、**自動的に電源が切れる**ように設定し、無駄なバッテリー消費を抑えよう。

## 1 電源の自動オフの時間を設定する

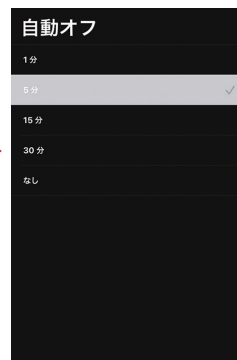
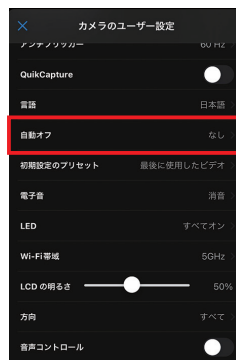


「ユーザー設定」の「一般」から、「電源の自動オフ」をタップする①。



右の項目を上下にスライドして、電源が自動でオフになるまでの時間を選ぶ②。

### アプリの場合



「カメラのユーザー設定」から、「自動オフ」(HERO13では「電源の自動オフ」)をタップする。任意の自動オフになるまでの時間を選ぶ。